

2022 年 5 月 13 日更新

関西学院グリークラブ 120 周年記念事業報告

関西学院グリークラブ 120 周年記念事業実行委員会

関西学院グリークラブは 1899 年に当時の関西学院のキャンパスである神戸・原田の森にて誕生し、明治、大正、昭和、平成、令和と激動の時代を歌い継ぎ、2019 年に 120 周年を迎えました。

これを記念して、関西学院グリークラブ 120 周年記念事業実行委員会を中心に様々な事業を企画し、社会に広く PR してまいりました。同時に関西学院グリークラブファミリーのメンバーは、歴史や原点を顧みることによって先輩方から大切に受け継がれてきた「メンタルハーモニー」の精神を胸に刻み、さらなる発展を誓って決意を新たにしています。

記念事業の取り組み状況について、以下の通りご報告いたします。

1. 記念事業について

○神戸・原田の森で記念式典を開催、記念植樹、記念プレートを設置

関西学院と関西学院グリークラブ誕生の地である神戸・原田の森（現在の王子公園一帯）。グリークラブの活動はこの地で始まり、1929 年まで 30 年間の時を過ごしました。

1899 年夏、当地にあった学院本館講堂にてグリークラブは産声をあげ、1919 年 9 月 15 日にはチエコスロバキア軍音楽隊を招いて音楽会が行われて“U Boj!”が日本で初めて演奏されました。

その音楽会からちょうど 100 年にあたる 2019 年 9 月 15 日（日）、今も当地に建つ神戸文学館（旧関西学院ランチ・メモリアル・チャペル）に、関西学院グリークラブ、中学部グリークラブ、新月会の各メンバーと関係者が集まり、120 周年記念式典を執り行いました。

館内では嶺重グリークラブ顧問による聖書朗読と祈祷、小池新月会会長の式辞、今田寛元グリークラブ顧問に祝辞を賜り、当地で歌われていた“Old Kwansei”と“U Boj!”を合唱。さらに屋外に場を移して、オリーブの木を記念植樹して記念プレートの除幕式を行い、再び“U Boj!”を合唱して締めくくりました。当日は晴天にも恵まれ、関西学院グリークラブの原点に思いを馳せるとともに、さらなる発展に努めていくことを皆で誓う一日となりました。

神戸文学館やオリーブの木、記念プレートはどなたでも見学可能です。是非ご覧いただければ幸いです。

関西学院グリークラブ 120 周年 ウボイ伝承 100 周年記念式典

日時：2019 年 9 月 15 日（日）11 時開始

会場：神戸文学館（元関西学院ランチ・メモリアル・チャペル）

開会の辞・司会	： 林 浩平（グリークラブ部長）
合唱 “Old Kwansei”	： 石川龍太（グリークラブ指揮者） 指揮、一同
聖書朗読・祈祷	： 嶺重 淑（グリークラブ顧問・関西学院大学宗教主事）
式辞	： 小池義郎（新月会会長）
祝辞	： 今田 寛（グリークラブ元顧問・関西学院大学元学長）
合唱 “U Boj!”	： 広瀬康夫（グリークラブ技術顧問・新月会副会長） 指揮
プレート設置、植樹の紹介	： 赤松正昭（新月会副理事長）
記念プレート除幕・記念植樹	： 参列者代表
記念撮影	： 一同
閉会の辞	： 矢橋 洋（グリークラブ副顧問・新月会副理事長）

○関西学院中央講堂、関西学院会館で記念フェスティバルを開催

関西学院の 130 年目の創立記念日の翌 2019 年 9 月 29 日（日）、関西学院グリークラブファミリー（中学部・高等部・大学・ウィメンズ・新月会）が西宮上ヶ原キャンパスに集い、120 周年記念フェスティバルを開催しました。1929 年にキャンパスが移転してから、西宮上ヶ原の地では 90 年の時が経たことになります。

当日は朝 9 時に出演者と関係者が出席して礼拝、続いて 14 時から満員のお客様にご来場いただいたの演奏会、そして 17 時 30 分から長年お世話になっている方をお招きしての祝賀会と 3 部構成で執り行いました。

礼拝は嶺重グリークラブ顧問の司式により執り行い、田淵関西学院前院長よりグリークラブファミリーへの力強い激励のメッセージをいただきました。また奏楽（パイプオルガン）はグリークラブ部員でチャペルオルガニストを務める田島さんが務めました。

続く演奏会はグリークラブが 1900 年より歌い継いでいる校歌“Old Kwansei”の全員合唱により開演、演奏会の中では関西学院の 4 つの校歌をすべて全員で演奏し、各校歌の誕生の経緯や当時の学院の様子などをスクリーンに写真を投影しながら紹介しました。特に校歌「緑濃き甲山」は作曲 80 年、校歌“A SONG FOR KWANSEI”は作曲 70 年という節目を迎えましたが、両曲はいずれもグリークラブ OB の山田耕筈の作曲でグリークラブが同じ場所（中央講堂）で初演しており、メモリアルな演奏となりました。

さらに混声合同ステージでは「ウボイ日本伝承 100 周年記念」を祝いました。「ウボイ」が関西学院グリークラブに伝わってから今日までの 100 年の歴史をまとめた動画を上映し、まずは歌い継いできた「ウボイ」伝承版を演奏。続いて作曲者のイヴァン・ザイツによる混声合唱曲“Ave Maria”を演奏し、最後はヴォイストレーナーとしてグリークラブがご指導いただいている小貫先生とピアニストで新月会会員の島田さんをゲストに迎え、オペラ「ニコラ・シュービッチ・ズリンスキー」で登場する“U Boj!”の終幕部を盛大に披露しました。

男声合同ステージは、デュオバ作曲“Messe Solennelle”（荘厳ミサ）より 3 曲を演奏しました。こ

れまでの 80 周年、100 周年と 20 年ごとのメモリアルイヤーにも演奏を行っているグリークラブにとって大切な作品であり、1949 年に関西学院グリークラブが全曲初演を行ってからちょうど 70 周年という記念の年でもありました。

演奏会の最後には、「関西学院グリークラブのウボイ・ストーリー100 周年」を語る上で欠かせない 3 カ国から来賓としてご臨席いただいた、ドラージェン フラスティッチ閣下（クロアチア共和国特命全権大使）、マルチン トムチョ閣下（チェコ共和国特命全権大使）、およびユライ ペトルシュカ様（スロバキア共和国経済通商担当参事官）をご来場の皆様にご紹介し、“U Boj!”オリジナル版を演奏して、盛大に幕を閉じました。当演奏会では計 3 種類の「ウボイ」を披露したことになります。

続く祝賀会は関西学院会館レセプションホールに会場を移し、上記ご来賓 3 名をはじめ、学院を代表して舟木関西学院院長、東西四大学合唱連盟の各 OB 団体を代表して同志社グリークラブ OB 会新井会長などから祝辞を賜るなど、多くのご来賓の方々とグリークラブファミリーのメンバーが国際色豊かで和やかな交流のひとつを持ちました。

記念フェスティバルは毎年各団体から委員が集まって組織されるグリークラブフェスティバル実行委員会が中心となって企画、運営を行いました。同委員会はグリークラブファミリーの連携によって極めて重要な役割を果たしています。特に今回の記念フェスティバルは大規模な企画内容となったため、例年以上に多くの委員会を重ね、役割分担し、協力し合いながら準備、運営にあたりました。マネジメント面での新しい挑戦がいくつもありましたが、それをファミリーが一体となって乗り越えたことで一層絆が深まり、各団体が多くのことを得ることが出来たと感じています。

記念礼拝 会場：関西学院中央講堂

司式	： 嶺重 淑（グリークラブ顧問、関西学院大学宗教主事）
奏楽	： 田島淳之介（グリークラブ）
讃美歌	： 21-155「山べにむかいて」／21-280「馬槽のなかに」
聖書	： 詩編 第 100 篇／コロサイ人への手紙 第 3 章 12～17 節
メッセージ	： “Tune every Heart and every Voice ～Old Kwansei” 田淵結（関西学院前院長）

記念演奏会 会場：関西学院中央講堂

“Old Kwansei”	指揮：広瀬康夫（グリークラブ技術顧問・新月会副会長）
関西学院中学部グリークラブステージ	指揮：重松一朗（中学部グリークラブ顧問）
「空の翼」	指揮：眞見隼史（高等部グリークラブ指揮者）
関西学院高等部グリークラブステージ	指揮：北島大助（高等部グリークラブコーチ）・眞見隼史
混声合同ステージ「ウボイ日本伝承 100 周年記念」	指揮：広瀬康夫 独唱：小貫岩夫（グリークラブヴォイストレーナー） ピアノ：島田稔也（新月会）

「緑濃き甲山」	指揮：辻 伸高（新月会指揮者）
新月会ステージ	指揮：辻 伸高
“A SONG FOR KWANSEI”	指揮：石川龍太（グリークラブ指揮者）
関西学院グリークラブ ステージ	指揮：石川龍太・広瀬康夫
男声合同ステージ “Messe Solennelle”（荘厳ミサ）より	指揮：広瀬康夫
“U Boj!”	指揮：石川龍太

※記念フェスティバルパンフレットには以下の皆様方よりご祝辞を賜りました。

- ・ドラージェン フラスティッチ 閣下（クロアチア共和国 駐日特命全権大使）
- ・舟木 譲 様（関西学院 院長）
- ・村田 治 様（関西学院大学 学長）
- ・枝川 豊 様（関西学院高中部 部長）
- ・西名 弘明 様（関西学院同窓会 会長）
- ・浅井 敬壹 様（全日本合唱連盟 名誉会長・関西合唱連盟 会長）
- ・岸 信介 様（全日本合唱連盟 理事長）
- ・本山秀毅 様（大阪音楽大学 学長）
- ・新井 克次 様（同志社グリークラブ OB 会 会長）
- ・柿沼 郭 様（早稲田大学グリークラブ OB 会 会長）
- ・吉川 信男 様（慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団三田会 会長）

○「ウボイ日本伝承 100 周年」記念動画を制作

激動の時代の中、関西学院グリークラブファミリーが絶やさず歌い継いできた「ウボイ」。その 100 年にわたる貴重な歴史をまとめた記念動画を制作しました。記念フェスティバルで上映し、グリークラブの公式 You Tube チャンネルでも公開しています。

○120 周年記念 CD を制作

故・北村協一グリークラブ常任指揮者の発案により毎年グリークラブファミリーが一丸となって取り組んできたリサイタルの合同ステージは、関西学院グリークラブの貴重なレパートリーとメンタルハーモニーを未来に歌い継ぎ、音源として残していくことを目的としてスタートしました。このプロジェクトは 2007 年より広瀬康夫技術顧問に引き継がれ昨 2019 年までの間に 13 回の演奏を重ねてきました。そのライブ音源をすべてまとめた記念 CD（4 枚組）を制作し、120 周年記念募金にご協力いただいた皆様に記念品として贈呈しています。

○関西学院大学博物館にて記念展示

関西学院大学博物館（西宮上ヶ原キャンパス時計台内）にて、2019年9月から2020年3月までの半年間、関西学院グリークラブ 120 周年記念展示コーナーが設置されました。グリークラブの年表やウボイに関する資料、戦前の競演合唱祭優勝時や全日本合唱コンクール金賞受賞時の記念品、ステージ衣装など、貴重な資料を展示しました。

本展示は、関西学院の学院史編纂室のご理解、ご協力を得て実現しました。

○東京、兵庫で 120 周年記念 第 88 回関西学院グリークラブリサイタルを開催

現役部員が主体となり計画・開催したリサイタルは、内容・演奏の質ともに 120 周年を飾るに相応しいものとなりました。

客演指揮の本山秀毅先生は、リサイタルに初出演された 10 年前（110 周年リサイタル）と同じ「いつからか野に立つて」（木下牧子作曲）を再び指揮され、10 年間のグリークラブの進化を感じました。リサイタルではお馴染みの広瀬康夫技術顧問指揮によるバーバーショップスタイルのステージは、2018 年に映画「ボヘミアン・ラブソディ」の世界的ヒットでも一世を風靡したイギリスのロックバンド QUEEN の名曲の数々を、学生が主的に考えたコレオグラフィや照明などの演出付きで演奏し、会場を大いに沸かせました。

学生指揮者の石川龍太さんは、1984 年に関西学院グリークラブが委嘱し北村協一指揮により初演した「鐘の音を聴け」を選曲。演奏に非常に高度な技術が要求されるためか初演以来関西学院グリークラブでは演奏されていない「幻の作品」ともいうべき存在で、実に 36 年ぶりの演奏となりました。作曲者の新実先生にご指導いただき、また東京公演にご来場いただきました。

兵庫公演で石川さんは松下耕作曲の組曲「秋の瞳」も指揮しましたが、この作品は八木重吉の詩を研究している部員のたつての希望もありグリークラブとして初の演奏が実現するなど、学生の活躍が特に目を引くリサイタルでもありました。

そして合同ステージは関西学院グリークラブにとって大切なデュオバ作曲“Messe Solennelle”（荘厳ミサ）の全曲演奏。グリークラブのメンバーと新月会、高等部グリークラブのファミリーが総力を結集しての演奏し、120 周年を飾るに相応しいまさに荘厳なステージとなりました。

120 周年記念 第 88 回関西学院グリークラブリサイタル

【東京公演】2020 年 2 月 8 日（土）すみだトリフォニーホール大ホール

- | | |
|------------------------|-------------|
| ・“A SONG FOR KWANSEI” | 指揮：石川龍太 |
| ・無伴奏男声合唱組曲「いつからか野に立つて」 | 指揮：本山秀毅（客演） |
| ・「ボヘミアン・ラブソディ」 | 指揮：広瀬康夫 |

- ・「鐘の音を聴け」－男声合唱のための幻想曲－ 指揮：石川龍太
- ・“Messe Solennelle”（新月会との合同） 指揮：広瀬康夫

【兵庫公演】2020年2月23日（日）兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール

- ・“A SONG FOR KWANSEI” 指揮：石川龍太
- ・無伴奏男声合唱組曲「いつからか野に立つて」 指揮：本山秀毅（客演）
- ・男声合唱組曲「秋の瞳」 指揮：石川龍太
- ・「ボヘミアン・ラブソディ」 指揮：広瀬康夫
- ・“Messe Solennelle”（新月会・高等部グリークラブとの合同） 指揮：広瀬康夫
- ・「鐘の音を聴け」－男声合唱のための幻想曲－ 指揮：石川龍太

○120周年記念ロゴ、グッズを制作

120周年記念のロゴとそのロゴをあしらった記念品を制作しました。

- ・記念プレート ミニチュア版（ステンレス製）
- ・記念トートバック（キャンバス生地）2色プリント
- ・記念ロゴ クリアファイル2枚・記念ロゴシール1枚
- ・記念バックタグ 皮製（生成り色） 記念ロゴ入り

○メディアでの広報展開

関西学院広報室と連携してプレスリリースを行い、各メディアより取材を受け、報道されました（いずれも2019年）。また120周年の取材をきっかけとして、その後朝日新聞（関西版）の紙上で関西学院高等部グリークラブを特集する連載がスタートしました。

- テレビ ・朝日放送テレビ（9月29日「ABCニュース」）
- ラジオ ・朝日放送ラジオ（10月22日「伊藤史隆のラジオノオト」）
- 新聞 ・朝日新聞 9月22日朝刊（記念式典）
 - 9月30日朝刊（記念フェスティバル）
 - 10月14日朝刊（関西合唱コンクール）
 - 11月24日朝刊（全日本合唱コンクール）
 - 12月3日朝刊（ドリームコーラスコンサート）
- ・産経新聞 9月14日朝刊（記念フェスティバル）
- ・読売新聞 9月12日夕刊（記念フェスティバル）
- ・神戸新聞 9月7日朝刊（記念フェスティバル）

○ホームページのリニューアル

2021 年 9 月、関西学院グリークラブおよび新月会のホームページのリニューアルを行い、情報発信力強化とグリークラブファミリーの連携強化を図りました。今後も各種資料を掲載するなどコンテンツの充実を図ってまいります。併せて公式 You Tube チャンネルを開設しており、動画コンテンツの発信等も強化しています。

○百二十年史の制作

関西学院グリークラブの歩みをまとめた年史を 40 年ぶりに発行します。デジタル版で制作し、120 周年記念募金にご協力いただいた皆様に記念品として贈呈します。

日本でもっとも長い歴史を持つ男声合唱団としてのこれまでの歩みをまとめて紹介するとともに、今後の関西学院グリークラブをはじめ広く合唱界にとっても参考となる資料にしたいと考えております。

2021 年内に発行予定で進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で制作が遅れておりますことをお詫び申し上げます。2022 年度内の完成を目指し、引き続き制作作業を進めております。

○グリークラブホール・資料館のリニューアル

関西学院グリークラブの専用練習場として関学トーンやメンタルハーモニーを生み出してきたグリークラブホール（1971 年竣工）と、貴重な資料を保管しているグリークラブ資料館（2000 年竣工）。2つの建物は老朽化が進み、必要な機能を満たしていない点があるため、改善が必要となっています。グリークラブの今後のさらなる発展を期して、課題の抜本的な改善を図るべくリニューアルを行います。

また今般の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、練習環境の改善についてはさらなる見直しが必要不可欠な状況となっております。引き続き解決に向けて取り組むべき課題の優先順位を検討し、学院の協力を得ながら、取り組みを推進してまいります。

2. 記念募金について

上記記念事業の推進を目的として、目標金額を 15,000,000 円として、2021 年 3 月末まで募金活動を行ってまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で当初予定していた形での活動が行えなかったことから、期間を 2022 年 3 月末までに延長し、取り組んでまいりました。

その結果、のべ 510 件、17,875,000 円と目標を上回るご寄付を賜りました。ご協力いただきましてすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

募金にご協力いただきました皆様には、120 周年記念 CD と百二十年史（デジタル版）を贈呈するとともに、匿名ご希望の方を除き、リサイクルパンフレットおよびグリークラブホールに設置予定の記念銘板にご芳名を記載いたします。

以上